

富士通の新たな成長戦略

富士通グループは、今年度を「徹底した構造改革の年」と位置付け、新たな成長を実現するために、中期的視点に立った変革を推進してまいります。

「ソフト・サービスによる高付加価値化の追求」

製品・技術の付加価値が低下する中で、あらゆる事業分野でのソフト・サービス化を進め、製品・技術と優位性のあるアプリケーションやサービスを組み合わせることにより商品価値を向上させ、競争力強化を図ってまいります。また、ITについて自社運用から「持たざる運用」(アウトソーシング)へという動きに代表される市場ニーズの質的な変化に対応し、サービスビジネスの構造改革を進めてまいります。

プロダクトビジネス

情報処理

データの貯蔵庫であるストレージ、特定用途向けのアプライアンス・サーバについて、運用管理やバックアップなどのサービスを付加することにより収益性を向上してまいります。

通 信

通信キャリア向けビジネスについては、単なる装置の提供にとどまらず、構築・運用・保守・工事等のトータルサービス化により競争力を強化してまいります。

電子デバイス

部品としてのシステムLSIにアプリケーション機能などを付加することにより、様々な市場ニーズに対応してまいります。また、複雑化するシステムLSIの開発環境を提供するサービスを強化してまいります。

サービスビジネス

ソフト・サービス

サービスビジネスの構造変化をとらえ、上記のプロダクトを基盤としてインターネットデータセンタ等を活用し、ブロードバンド・インターネットを介してサービスを提供するためのインフラサービスを強化してまいります。

「コアテクノロジ/プロダクトへの一層の集中」

インターネットのブロードバンド化に対応し、最先端デバイス、光技術、高信頼性サーバ・ファイル技術、DWDM等の分野において、世界市場で競争力のある製品・技術へ経営資源を集中してまいります。さらに、他社との戦略的提携の推進により、経営資源の最適配分と経営効率化を図ってまいります。

「グループとしての競争力強化」

お客様そして商品がグローバル化する中で、富士通グループ全体の方向性をより明確にし、グループの総合力を最大限に発揮するために、国内外の関係会社の再編・統合を推進し、効率化を図ってまいります。

ソフト・サービス

企業のIT投資による十分な市場機会がある中で、米国DMR社はITコンサルティングビジネス、英国ICL社はインフラサービスに特化するといった役割分担を明確にした体質転換を図り、“FUJITSU”統一ブランドのもとに、事業、担当地域を再編し、今後の富士通グループの収益の柱となるグローバルなサービスビジネスの強化・発展をめざしてまいります。

情報処理

富士通とP F Uで行ってきた世界標準仕様であるUNIXサーバの開発を富士通に一元化する一方で、独シーメンス社との合併であるFSC社と富士通とで分担しているIAサーバの開発を、FSC社に一本化して、グループとしての効率化を図るなど、コアとなるサーバ/ストレージビジネスの開発・製造体制の再構築を行ってまいります。

通 信

光伝送システム、第3世代の移动通信システム、コア・ネットワークとあらゆるエンドユーザ・システムを接続するアクセス・ネットワークを中核製品として、日米欧の3極によるサポート体制を確立し、その連携を一層強化することにより、グローバルなネットワークのトータルソリューションを提供できる体制を構築し、ワールドワイドに展開する通信キャリア、企業ネットワーク市場に対応してまいります。

電子デバイス

あきる野テクノロジーセンターへの先端技術の開発集中、製造力強化に向けた国内外工場のスリム化を行うなど製造体制の効率化を図ってまいります。

「その他の経営改善に向けた取り組み」

本年5月より、製品の機能や信頼性だけでなく、お客様対応、納期、コストなどより広い範囲での品質の向上をめざしたQfinity活動を推進しております。さらに、活動の一環として棚卸資産の削減と徹底したコストダウンを図ってまいります。人材活性化の点では、成果主義を見直し、さらにグループをあげて世界に通用する次世代の経営リーダーを育成するためにG K I (Global Knowledge Institute) を開設し、経営幹部の育成を推進してまいります。

「地球環境問題への対応」

本年4月より第三期環境行動計画に基づき、企業経営における重点的な環境対応を推進しております。特に循環型社会における製品対応の強化を目的として、全世界のマーケットに適應するグリーン製品の開発を推進してまいります。